

子育て・青少年育成部会



岩本 健志

生まれは長府、育ちも長府。現在南部町在住の名陵学園名陵小学校初代PTA会長の岩本と申します。

この町は、取り巻く環境も良く、大変住みやすい地域です。子育ては、その両親、身内だけでなく、地域の環境やそこに暮らすみなさんも、大きく影響するものだと思います。

わたくしの娘が生まれ育つこの地区

に、こんなにも力強い組織力を備えた、中東地区まちづくり協議会様が存在しますことを嬉しく思います。この地域に育つ子供たちと、郷土を愛する気持ちを育てながら、楽しい時間を共有出来れば幸いです。わたくしも何かお役に立てればと考えておりますので、今後も宜しくお願い致します。

街中再生計画推進プロジェクトチーム

下関の賑わい創出と交流人口の拡大を図るため成すべきことは何か？

三方を海に囲まれた風光明媚な地、海峡メッセの展望台から、唐戸観覧車最上部から、火の山頂上からなど高所からの眺望は目を見張る物が有ります。

ただこれらの地に行くにも交通費の高さ、展望台や観覧車の利用金額の高さなど二の足を踏む思いがします。

ならば、どうすればお客さんを呼ぶこ

とが出来るかをこれから考え、例えば、シャトルバスの運行で下関駅から海峡メッセ・観覧車・海響館・唐戸市場・火の山、更には渡船で渡り、門司港レトロなどを巡るセット料金を設定し、安い料金で運用すれば如何だろうか。

兎に角、人の動きが生じる事を手始めに考えて見ます。

宜しくお願い致します。



城崎 幸公

中東地区 SDGs プロジェクトチーム



河村 和秀

令和3年4月より、「SDGs」の講演を6回行いました。テレビ等では、しきりに「SDGs」を取り上げて宣伝しております。しかし、街中をみると「SDGs」という字が見当たりません。

環境も防災も、みな「SDGs」であります。中東地区まちづくり協議会の地域において、年間を通し1日でも「SDGs」に触れ合う機会をつくり、宣伝をし、遊びや体感から学び、普段していることも、「SDGs」だよと感じて欲しいのです。

特にコロナ禍において、学校や演劇や

演奏者の発表の場もなくなりつつあります。野外ステージを作り、参加者全員で楽しみ、思い出づくりをしたいと考えております。

ゴミ問題の分別も、カーボンニュートラルも、海ごみゼロ活動も「SDGs」を反映するために始まっております。

中東地区まちづくり協議会の地域の方は、「SDGs」とは「持続可能な開発目標」で、「私は、節水してます。」「私はエコドライブしております。」と答えられるようになればいいと思います。

事務局だより

運営委員会の役割

事務局長 安田 和夫

運営委員会は、役員（会長、副会長、事務局長、会計、各部会長、監事）と自治連合会長、副部会長、顧問さんで構成されますが、市のサポート職員、下関市社協や地域包括支援センターの職員さんも参加され、毎月1回・お互いの活動を共有しています。又、中

東地区まち協の活発な活動に刺激され、様々な市民団体の方々も、協力依頼等で参加されています。各部会やプロジェクトチームの活動を皆で共有して、まち協全体で活動する為の発電所が運営委員会なのです。